

基調講演



演題

私と国際奉仕

パストガバナー 延原 正
(岡山南RC)

岡山の町を東に向かい峠を越えてしばらく行くと円山・正覚谷という所に護国山曹源寺という臨済宗妙心寺派の名刹があります。

元禄11(1698)年、二代岡山藩主池田綱政公が高祖父信輝の菩提を弔い、また自らの冥福を祈るため建立され、幕末まで池田家の菩提寺であった禅寺であります。私は、このお寺の佇まいと和尚さんの優しい人柄が好きで、もう三十数年もまえから時折訪ねます。

このお寺は変わったところがあります。和尚さん1人を除いて修行僧全員が外国人であるということです。禅寺だけに変わっています。作務衣を着て掃除をしたり炊事をしたり奇態とも言えると思います。彼らの日常生活はもちろん、立ち居振る舞いは全て禅寺の作法にかなない修行に励んでいます。私は、和尚さんである原田正道老師に「なぜお弟子さんたちはみんな外国人なのですか」と尋ねました。和尚さんの答えは、「私は、師に「海を越えて来た人たちは大切に下さい、親切にして下さい」と教わりました。ただそれだけです。」

この禅寺で私は考えました。島国であるわが国は、いにしえより多くの文物は大陸から海を渡って伝来したものが多くあります。これらはすべて異国のの人々により荒波を越えてもたらされたものであります。荒波を越えて来るということは、とりもなおさず命を懸けて、ということであります。昔、学校で学んだことを思い出して考えました。縄文時代の終わりころに、揚子江流域などから「水稻」が運ばれて来たと言われています。(陸稲は6000年前から存在した)そして、弥生時代に繋がってゆきます。漢字や仏教や寺院建築技術などが伝来し、古代日本における文化・政権形成に大きな役割を演じたと考えられます。

「海を越えて来た人」といえば私は、鑑真和上が思い浮かびます。聖武天皇から仏教における「戒律」を日本に伝えるように懇願されます。招請の使者が派遣されます。周囲の人たちから反対されますが、海を渡って日本に行くことを決意されます。爾来十年、官憲の妨害や、出航したが暴風に遭い一旦戻らざるを得なくなってしまったりで、失敗を重ねます。五度目の渡海を試みるも激しい暴風雨に遭い、漂流の末、海南島に漂着。南方の気候や激しい疲労などにより、両眼を失明してしまいます。六度目の渡海を試みたときは、当時の玄宗皇帝が鑑真の才能を惜しんで出国を許さなかったが密かに出航します。

またも暴風に遭遇しますが、運良く薩摩に到着。波濤をこえて実に十年の歳月を費やし、仏舎利を携えられ、多くのお弟子さんたちを伴って念願がかなったの渡来でありました。日本での業績は唐招提寺の建立を始め数多く伝えられていますが、その最たるものは「戒律」の確立でありましょう。その使命を終えられて遷化されたのは十年後でした。

また、私は鑑真和上より少し遡る同じ奈良時代の人で父は百済系渡来人の末孫といわれている僧行基の

業績に思いが至ります。貧民救済・治水・架橋等の社会事業に活動されました。そして、聖武天皇に請われて東大寺大仏造営の勧進に力を注がれました。その勧進に赴いた村々で「道行く人々のために道を常に良くしてあげなさい」、また「旅人で病に罹り難儀をしている人がいたら助けなさい」と教えられました。この美風が後の道譜請となり、お救い小屋となったとされています。行基は大仏開眼を見ることなく入滅されますが、朝廷は菩薩の称号をもってその功績を称えました。

私たちはこのような歴史の上に暮らしているという事実は否定できないと思います。短い「海を越えて来た人」というフレーズに全ての大切な歴史が込められていることに思いが至りました。

和尚さんの大きな広い考え方が外国の人々に広がり今があるのだと知りました。和尚さんの「師」山田無文老師のことを知りました。禅界では明治以降では日本の禅文化を海外に広く知らしめた仏教学者(文学博士)鈴木大拙と並んで、稀代の名僧だといわれたお方です。荒波を越えて命を懸けて海を渡って来たことは昔の話となり、今は空を飛んで来る時代になりました。しかし、思いは同じだと思います。

私は1963年に岡山西ロータリークラブに29歳で入会しましたが、徳山市にて、新事業を立ち上げるため、3年足らずで退会したので、ロータリーの奉仕の何たるかも良く理解ができていませんでした。新事業も成功し岡山に帰りましたが、直後、日本国有鉄道にスカウトされ、JRに移行するまでその務めを果たし、その後1988年に岡山南ロータリークラブに入会しました。そして、私は「ロータリーの奉仕」について学び、米山記念奨学会の理念を知り、この理念こそが曹源寺の原田和尚の「師」の教えである「海を越えて来た人たちは大切にしてください。親切にしてさしあげなさい」に通じるものだと悟りました。

そこで、あらためて「米山記念奨学会」について学習をしましょう。東京ロータリークラブで国際奉仕の一環として、東南アジアからの留学生を対象に1953年2月に「米山基金」として発足しました。(日本のロータリーの発展とともに全国のロータリークラブの支持を受け、東京ロータリークラブ初代会長米山梅吉翁の功績を記念して命名)

1960年「ロータリー米山記念奨学会」と改称、更に1967年「財団法人ロータリー米山記念奨学会」が設立されました。そして、2012年「公益財団法人ロータリー米山記念奨学会」となり、民間としては日本で最大級の奨学金制度となっています。また、現在では東南アジアからの学生とは限られていないとされています。

この制度は日本以外の国籍を有する者で、日本の大学院、大学または学術研究機関に留学または研究のため在籍している外国人に対し「国際理解と親善」に寄与することを目的とした日本のロータリー独自の国際奨学制度であり、そしてまた、奨学生1人1人に世話クラブおよびカウンセラーを定め、相談相手になっていることも特色となっています。奨学金制度および支給月額については割愛することとします。日本のロータリーが誇りうる国際奉仕である「米山」に一層のご協力あらんことを心から祈念いたします。

なお、国際ロータリーには、「国際ロータリーのロータリー財団」が奉仕活動の中心となっていることは充分承知しております。

私は、「財団」と「米山」がともに国際奉仕の両輪となって活動し、多大な成果を挙げられますことを祈念し、この稿の終わりいたします。

延原 正 (のぶはら ただし) 氏 略歴

生 年 月 日 1933(昭和8)年1月26日生

職 業 分 類 貨物自動車輸送

略 歴	1955年 3月	中央大学法学部法律学科 卒業
	1962年 3月	株式会社新聞輸送サービス 代表取締役就任 現在に至る
	1965年 9月	丸新運輸株式会社 代表取締役就任 2020年8月退任
	1968年10月	徳山丸新運輸株式会社 代表取締役就任 2013年6月退任
	1984年10月	テレビせとうち株式会社 取締役就任(非常勤)
	2001年 4月	社会福祉法人旭川荘 理事就任 2017年3月退任
	2007年 6月	テレビせとうち株式会社 取締役退任 監査役就任 現在に至る
	2014年 5月	社会福祉法人旭川荘友の会 会長就任
	2017年 4月	社会福祉法人旭川荘 評議員就任
ロータリー歴	1963年 1月	岡山西ロータリークラブ 入会
	1965年 8月	山口県徳山市へ会社設立のため退会
	1988年12月	岡山南ロータリークラブ 入会
	1997-98年度	会長・理事
	2005-06年度	国際ロータリー第2690地区 地区ガバナー
	2006-08年度	国際ロータリー第3ゾーン ロータリーカード・コーディネーター
	2006-07年度	国際ロータリーゾーン 1. 2. 3. 4(A)第35回ロータリー・ゾーン研究会 実行委員会事務局長・会計責任者
	2007-08年度	国際ロータリー2008年ロサンゼルス国際大会推進委員会委員
	2008-09年度	国際ロータリー第2690地区 地区研修リーダー
	2008-09年度	国際ロータリー第2690地区 地区ロータリー財団委員長
	2008年度～	ロータリー日韓親善会議委員会委員
	2008年11月	国際ロータリー第2740地区 地区大会 R I 会長代理
	2009-11年度	ロータリーの2億ドルのチャレンジ第3ゾーン・コーディネーター(ZCC)
	2010-12年度	恒久基金日本委員会委員
	2010-11年度	国際ロータリー第2690地区 地区研修リーダー
	2011-12年度	2014-16年度 R I 理事指名委員会委員
	2012-14年度	ポリオ撲滅第3ゾーン・コーディネーター
	2013-18年度	特定非営利活動法人国際ロータリー日本青少年交換委員会(RIJYEC)社員 *2017年1月より一般社団法人国際ロータリー日本青少年交換多地区合同機構(RIJYEM)
	2014-16年度	公益財団法人米山記念奨学会評議委員

2015-16年度 国際ロータリー第2690地区 地区研修リーダー
2020-21年度 2022-24年度 R I 理事指名委員会委員 招集者
2020-21年度 公益財団法人ロータリー日本財団評議員選定委員会委員
アーチ・クランフ・ソサエティ会員(管理委員会サークル)
ポール・ハリス・ソサエティ会員
米山功労者メジャードナー(第178回)

ロータリーでの表彰

- ・2001-02年度 ロータリーの全世界での探求賞
- ・2005-06年度 ロータリー財団地区奉仕賞
- ・2008-09年度 ロータリー財団功労表彰状
- ・2011-12年度 超私の奉仕賞
- ・2016-17年度 ロータリー財団特別功労賞

2020年11月現在

お礼のことば

2020-21年度 国際ロータリー第2690地区 第9グループ

ガバナー補佐 川 本 平 山
(岡山後楽園RC)

延原正パストガバナーには、「私と国際奉仕」と題して、国際奉仕の真髄に通じる格調高い基調講演をいただきました。主催者を代表して、ひと言お礼のことばを申し上げます。

延原パストガバナーの「米山」と「財団」をはじめとして国際奉仕への多大なるご貢献はまことに顕著であり、尊敬の念に堪えません。この「熱い」国際奉仕への思いはどこから生まれたのか大きな関心事でしたが、図らずも今回のご講演でそのルーツをお聞かせいただき、大変感動しております。

岡山市郊外の名刹「曹源寺」の老師との交流からヒントを得て、「海を越えて来た人」というフレーズからお話は山田無文老師に繋がり、古代日本を国際社会の一員に導いた「鑑真和上」の「海を越える」壮絶で命懸けの渡来から生まれた壮大で煌びやかな「天平の文化」の世界に導かれました。また、同時代の僧行基の業績にも触れられ、今日の貧民救済・治水・架橋、そして道普請やお救い小屋、等の社会事業の先駆者としてのお話も伺うことが出来ました。このような我が国の歴史を踏まえて、改めて「ロータリーの奉仕」、「米山記念奨学会の理念」を見るとき、その哲学には相通じるものがあるとの言葉には大きな説得力を感じます。ご講演、まことにありがとうございました。

皆さんとともに、いま一度大きな拍手をもって、感謝とお礼を表したいと思います。

テーマ

「新型コロナ時代の新たな日常」とロータリー活動

各クラブにおきまして、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を図りつつ取組んでこられた奉仕活動や、クラブ運営に関する事例と具体的な活動内容をご披露頂き、参加クラブの今後の活動の指針にさせていただきますたく紹介いたします。



新型コロナへの取り組み事例

2020-21年度 真庭ロータリークラブ
会長 廣岡 順

新型コロナウイルス感染症の世界的大流行により、私たちの生活は一変しました。

コロナ感染症はロータリー活動にも大きな影響を与えました。前年度の『PETS』は大幅な自粛の中で開催され、他の地区研修会は中止やWEB開催となりました。

また、4月開催予定だった『IM』も直前で中止せざるを得ず、皆さまにはご迷惑をお掛けしましたが、共に準備してきた備前ロータリークラブの皆さんはじめ関係各位のご努力に改めて感謝申し上げます。

1. E例会について

真庭クラブも昨年3月に入りコロナの影響で例会の休会を余儀なくされました。

そんな折、会員の中から「標準ロータリークラブ定款、第7条第1節例会の(b)会合の方法に、例会は、直接顔を合わせるか、電話で、オンラインで、またはオンラインの参加型の活動を通じて開催することが出来る。参加型の会合は、参加型の活動が掲載される日に開かれるとみなされるものとする。」という情報が入り、さっそく前年度理事会で検討し、休会するよりFacebook、Eメール、FAX等で会員と例会情報を共有しようと決定しEクラブになぞらえて【E例会】と名付け4月から例会を再開しました。

7月から会長を受けるに当たり、私はこの【E例会】の継続を決めました。

具体的には12月まで月2回は対面による通常例会、2回はE例会で開催する事としました。ただし、通常例会での食事は弁当を持ち帰りとし、会場内での飲食は禁止。従って懇親会を伴う『夜間例会』はじめ4月『花見例会』、7月恒例の岡大留学生との『国際交流会』、9月の『月見例会』、12月の『家族同伴クリスマス例会』は中止とし、例会のみの開催としました。

他クラブがコロナ感染拡大で休会される中で、新年度以降一度も例会(E例会を含め)を休会することなく開催してきました。嬉しい事に毎回の通常例会の出席率が90%前後というおまけまで付きました。

2. コロナ感染症防止に対応した例会場の改装について

真庭クラブの例会の会場は自前のロータリー会館です。訪問いただいた方はご理解いただけると思いま